



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2018年07月09日 第877号「週刊五十嵐レポート」

数的有利をつくる

現在サッカーロシアワールドカップでは決勝リーグで熱戦が続いている。日本は残念ながらベルギーに2対3で逆転負けをしたが、そのベルギーは王者ブラジルを2対1で下した。日本の善戦は色あせない。

元サッカーのコーチをしていた社長の話では、

「サッカーは、2対1をつくることから始まる。小さい所でどれだけ2対1を作れるか。アルゼンチンのメッシに対しても2人もしくは3人で対峙する。勝てる状況を作りながら進んでいく。数的有利をどれだけ作れるかでサッカーは決まる」。

カウンターでゴールが決まるとき、攻める方は確実に数的有利になっている。サッカーの場合、敵味方が11人同士。同じ11人の中で2対1(数的有利)を作り出すには作戦が重要になってくる。

戦いには必勝の条件がある。第二次世界大戦前、アメリカの数学者のコープマンはランチェスター法則とゲームの理論を組み合わせる効果的・経済的に且つ研究をして、その結果「2.83対1」を導き出した。必勝の根拠を数学で計算した。

経営に応用すると、1年で1位になるときは競争相手よりも2.83倍が必勝の条件になる。3年で1位になるときは 2.83倍。すなわち1.68対1が必勝の条件。5年で1位になるときは 1.68。1.3対1が必勝の条件。

有利な方を1とすると、不利な方が必ず負ける必敗の条件になる。3年では1対0.6。5年では1対0.77。競争条件が同じ場合、一定以上の開きがあると人間の努力の限界を超えてしまうので、勝つことはできない。

小さな会社は、全体では勝てないかもしれないが、小さな部分、局地戦で数的有利を作り出せば、厳しい経済環境下でも勝ち残ることは可能。ランチェスター経営の言葉では、「小規模1位主義」「部分1位主義」という。

サッカーでは、1人のスーパースターだけでは勝てないことが解った。やはりチームである。戦略である

ちょっと
気になる出来事

7月2日、国税庁は2018年の路線価を発表した。

東京・銀座「鳩居堂」前の路線価は1㎡4432万円。バブル期のピークだった1992年の3650万円を大幅に超え、33年連続で日本一となった。

都道府県庁所在地の最高路線価は、東京ほどではないが、近年上昇傾向。既に東商一部上場企業の時価総額はバブル時を超えている。これで株価も不動産もバブル時を超えたことになる。

バブル時は、日本国内だけのことだったが、今回は訪日客や外国人投資家の影響で価格が上がった。

観光立国になっていけば、大都市圏ばかりではなく、地方でも不動産価格は維持や価格上昇も続くことが可能である。

不動産は価格が下がるより、急激に上昇するのは弊害もあるが、徐々に上がることはいいことだと思う。



一口メモ
知識

問題ばかりの原因

この世の中は、問題ばかりです。

それは、特別なことをしたので、そうなったわけではありません。普通に生きている結果なのです。

あらゆる問題は、「自分自身に気づかないで生きている」から起こるのです。

私たちにできることは、自分自身に気づいて生きることです。

自分自身に気づいて生きていると、問題が起こりそうな瞬間がよくみえます。

そうすると、あらゆる問題もなくなるでしょう。

「ブッダの教え一日一話」(PHP研究所/アルボムッレ・スマナサーラ)より

「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

「戦略社長塾東京」小岩校 土曜隔週(第2・第4) 午後2時～6時

「戦略社長塾東京」銀座校、五反田校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

03-3659-7703 Fax 03-3659-7077 i-daruma@igarashireport.com

